

LGBT  
Lesbian Gay Bisexual Transgender

多様な性を考える映画祭

2023.7.1 (土)  
13:00~

12:30 開場 18:10 終了予定  
アウガ5Fカダール  
AV多機能ホール

青森市新町1-3-7(JR青森駅前)

前売券

1日通し券 ¥2,500

上映される3つのプログラム全てをご覧いただけます。

1プログラム券 ¥1,100

上映される3つのプログラムの中からひとつお選びいただくチケットです。

当日券

1日通し券 ¥3,000

1プログラム券 ¥1,300

※学割チケット(通し券のみ) ¥2,000

チケットは全席自由席です。当日券は映画祭会場受付にて残席に応じて販売いたします。

※学割チケットは開催日当日に販売いたします。受付にて学生証をご提示ください。チケットのご予約は下記お問い合わせ先またはウェブサイトからお申し込みください。(学割チケットの前売りはいたしませんので、ご注意ください。)

前売券をご希望の方へ

チケット販売は、当日会場受付のみで行います。前売券をご希望の方はウェブサイトお問い合わせから予約をお願いします。

新型コロナウイルス対策についてのお願い

※発熱や咳など当日体調がすぐれない方は参加をご遠慮ください。

※入場の際には、マスク着用、検温、手指の消毒をお願いする場合があります。

お問い合わせ

青森インターナショナルLGBT  
フィルムフェスティバル実行委員会

✉info@aomori-lgbtff.org

※会場内、会場付近での写真撮影は固くお断りいたします。※上映中の入場はできませんので、予め開演時間等をご確認ください。(上映が始まりますと会場内が暗くなり、足元が危険です)※会場内での飲食はできませんので、ご了承ください。※再入場の際はチケットの半券を係員へご提示ください。

主催/青森インターナショナルLGBT  
フィルムフェスティバル実行委員会  
協力/LGBTサークル スクランブルエッグ  
特定非営利活動法人 あおもりラジオくらぶ  
デザイン/エイチピースタイルング

# The Sixteenth Aomori International LGBT Film Festival

第16回青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル

I Am Here~私たちはともに生きている~

青森県内初上映



■監督：浅沼智也 Tomoya Asanuma  
■製作国：日本 ■製作年：2020年 ■上映時間：59分  
■言語：日本語 (英語字幕あり English Subtitles)  
■英題：I Am Here - We are here together -  
東京ドキュメンタリー映画祭 2020 短編部門グランプリ受賞

2004年、性別が変更できるGID(性同一性障害)特例法が施行された。しかし、適用要件が高すぎることもあり、性別変更を望んでも要件を満たすことができずにいる当事者が少なからずいるという現状がある。戸籍上の性別を変更できないことで、精神的な苦痛を生じたり、社会生活をする上で偏見や差別に合うこともある。

監督自身の家族との関係やカミングアウトなど、小さな視点から問題点を浮き彫りにし、性別に悩む様々な当事者達の想いを描いたドキュメンタリー作品。

## ハーヴェイ・ミルク



■監督：ロバート・エプスタイン Robert Epstein  
■製作国：USA ■製作年：1984年 ■上映時間：87分  
■言語：英語 (日本語字幕あり)  
■原題：The Times of Harvey Milk  
1984年アカデミー賞最優秀長編ドキュメンタリー賞 他多数受賞

米国で初めて自らゲイであることを公表し市政執行委員に当選後、凶弾に倒れたハーヴェイ・ミルク。彼の活動と暗殺事件、その裁判を通して米国社会の本質をとらえたドキュメンタリー映画史上不朽の名作。

## 世界は僕らに気づかない

青森県内初上映



■監督：飯塚花笑 Kasho Iizuka  
■製作国：日本 ■製作年：2022年 ■上映時間：112分  
■言語：日本語 (英語字幕あり English Subtitles)  
■英題：Angry Son  
2022大阪アジア映画祭コンペティション部門  
「来るべき才能賞」受賞

群馬県太田市に住む高校生の純悟は、フィリピンパブに勤めるフィリピン人の母親レイナと一緒に暮らしている。父親のことは母親から何も聞かされておらず、ただ毎月振り込まれる養育費だけが父親との繋がりとなっていた。

純悟には恋人の優助がいるが、優助からパートナーシップを結ぶことを望まれても、自分の生い立ちが引け目となり、なかなか決断に踏み込まず、一人苛立ちを抱えていた。そんなある日、レイナが再婚したいと、恋人を家に連れて来る。見知らぬ男と一緒に暮らすことを嫌がった純悟は、実の父親を捜すことにするのだが・・・。

©「世界は僕らに気づかない」製作委員会

最新情報は公式サイトで要チェック! <http://aomori-lgbtff.org>

## The Sixteenth Aomori International LGBT Film Festival

### プログラム内容

- |                                  |             |
|----------------------------------|-------------|
| ① I Am Here ～私たちはともに生きている～ (59分) | 13:00～14:05 |
| ② ハーヴェイ・ミルク (87分)                | 14:25～15:55 |
| ③ 世界は僕らに気づかない (112分)             | 16:15～18:10 |

### 『I Am Here ～私たちはともに生きている～』 監督 浅沼智也さんよりメッセージをいただきました



青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル開催おめでとうございます。

トランスジェンダーもそうでない人も今も昔もともに生きています。日本でもトランスジェンダーの人達に対する偏見や不安を煽る言説がソーシャルメディアを中心に広がっている中で、ともに生活しているトランスジェンダーの想いや日常生活での困難なことや法制度の問題などを多くの人達に知ってほしい・カミングアウトの有無に関わらず、全国各地にいるトランスジェンダーの人達にエールを届けたいと思い制作をしました。

性別移行をすることは精神的・身体的・金銭的にも負担が大きく、命に関わることもあります。当事者は就職活動や医療アクセスや日常生活など色々な場面で見ただ目で性別を判断されることや他者から性別を問われることがあり、自分らしく生活をしたくとも社会側から抑圧を受けることもあります。昨年LGBTQという言葉が社会的に浸透しましたが、当事者たちが生きやすい社会とは言い難いです。是非、この映画をきっかけにトランスジェンダーについて考えてみませんか??

トランスジェンダーの人達が生きやすい社会は誰もが生きやすくなる社会の一步です。

### 『世界は僕らに気づかない』 監督 飯塚花笑さんよりメッセージをいただきました



この世界の片隅で、ある種の生きづらさを抱える人たちの存在がどうしても気になってしまう。おそらくトランスジェンダーである自分自身のアイデンティティがそうさせて来たのだろう。今回の映画の主人公は、フィリピン人の母と日本人の父親を持つ青年だ。意外にも知られていないがこの国には、出稼ぎでやって来た沢山のフィリピン人女性が、日常に溶け込んで暮らしている。そしてその子どもたちもまた、この国の中で暮らしている。

この映画で描くのは、異なる文化を持った母親への息子の眼差しであり、“愛の問題”についての物語である。また、この映画が完成し公開してからもこの社会の中であらゆる差別や偏見を目にし続けている。こんなときの為に映画のラストには“束の間の”ハッピーエンドを用意している。

この映画を観て、身近にあった愛に気づく人がいるならば…そして、誰かの心が軽くなるならば…そんな願いを込めてこの映画を贈ります。